

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 29 July 2000

背景: 予防的頭蓋照射は小細胞肺癌患者における脳転移率を半減させる。完全寛解にある患者で実施された個々のランダム化試験は、この治療法が生存率を改善するかどうかを明らかにすることができなかった。

目的: 本研究の目的は、予防的頭蓋照射が完全寛解にある小細胞肺癌患者の生存率を延長させるかどうか検討することである。

検索戦略: 公表および未公表試験を対象とした。適合する試験を確認するため、電子的データベース(MEDLINE、Cancerlit、Excerpta Medica、Biosis、1965-1998年)、刊行された試験の参考文献リスト、レビュー論文、関連する成書を検索した。試験研究者や専門家とも討議し、会議議事録やPhysician Data Query 臨床試験登録も検討した。

選択基準: 完全寛解にある小細胞肺癌患者において、予防的頭蓋照射の有無を比較したランダム化試験とした。

データ収集分析: 最新の各データに基づくメタアナリシス。主要エンドポイントは生存率とした。

主な結果: 総計987名が参加した7件の試験が選択された。対照群と比較した治療群の死亡の相対危険度は0.84で(95%信頼区間=0.73~0.97、P=0.01)、3年生存率の5.4%上昇に相当する(対照群15.3%、治療群20.7%)。予防的頭蓋照射は無疾患生存率も上昇させ(相対危険度=0.75、95%信頼区間=0.65~0.86、P<0.001)、脳転移のリスクを低下させた(相対危険度=0.46、95%信頼区間=0.38~0.57、P<0.001)。照射線量を4群(8 Gy、24~25 Gy、30 Gy、36~40 Gy)で分析すると傾向検定、P=0.02)、線量の増加により脳転移リスクが低下したが、生存率に対しては線量による有意差はなかった。導入療法開始後の早期の頭蓋照射により、脳転移リスク低下の傾向を見出した(P=0.01)。

レビューア見解: 予防的頭蓋照射は完全寛解にある小細胞肺癌患者において、生存率および無疾患生存率を有意に改善する。頭蓋照射をより早期に、より高線量で行った場合に予想される脳転移率に対するより大きなベネフィットを確認するためには、さらなる臨床試験が必要である。

Citation: The Prophylactic Cranial Irradiation Overview Collaborative Group. Cranial irradiation for preventing brain metastases of small cell lung cancer in patients in complete remission. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2000, Issue 4. Art. No.: CD002805. DOI: 10.1002/14651858.CD002805.

Clib issue No.: 2005 issue 4

CRG名: Lung Cancer

* ご注意: この日本語訳は、試験的翻訳(Draft翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。